

岡崎市まちなか総合交通戦略の中間評価について

本市のまちなか総合交通戦略については、計画期間は平成 23 年度から平成 32 年度までである。そのうち平成 23 年度から平成 27 年度までをステージ 1 とし、事業進捗や事業効果等について中間評価をすることとしている。

中間評価では、総合交通戦略推進事業の進捗状況を把握し、また、期待される効果としての成果目標については、その中間目標値を設定し、平成 27 年度末における達成度をそれぞれ算出し評価を行った。

本交通戦略では、基本目標として

- I 人にやさしく安全安心な交通体系の整備
- II まちの魅力を高め活気づける交通体系の整備
- III 環境にやさしい交通体系の整備
- IV 円滑で快適な交通体系の整備

の 4 つを掲げており、それぞれの基本目標について、別紙 1（岡崎市まちなか総合交通戦略推進事業 進捗状況集計表）及び別紙 2（岡崎市まちなか総合交通戦略推進事業 中間評価総括表）のとおり評価を行った。

推進事業では、ステージ 1 において完了もしくは事業進捗が予定された事業を対象とし、ステージ 2 の事業については、中間評価と関連する事業についてのみ必要な記述を行った。

全 93 事業（重複あり）のうち、完了が 25 事業、これも含めて 50%以上進捗している事業は 77 事業で、全体の 83%となっている。

また、10 の成果目標のうち、中間目標値を達成している目標は 7、未達成が 2、達成度の把握がされていない項目が 1 であった。

これらのことから、事業は概ね順調に進んでおり、目標値もほぼ達成される見込みと考えられる。

なお、基本目標ごとの推進事業で、進捗状況が 50%未満であった事業が全 93 事業のうち 16 事業あった。これらの事業が、進捗に至らなかった主な要因としては、財政計画上の理由で実施の時期が当初からずれたものが 4 事業、区画整理事業等他の事業の進捗に合わせて実施する計画であったため、単独の事業としての進捗が図られなかったものが 3 事業、事業実施について個人もしくは団体等との調整を要するため進捗が図られなかったものが 3 事業、事業実施には新たな計画策定が必要であるが、計画策定が遅れているため 3 事業、その他の理由によるものが 3 事業であったが、実施自体に大きな阻害要因が認められる事業はなかった。

これ以外に、基本目標Ⅲの成果目標である「CO2 排出量の削減」では中間目標に大きく届かない状況であった。これについては、排出量算出に時間がかかるため平成 23 年の実績で評価しているが、エコカー導入・登録台数（正確な数字は運輸局も把握していないとのこと）も平成 23 年度以降大きく伸びていることが予想され、実際には削減も進んでいると思われる。このため、速やかな排出量把握ができる方法についても研究を進める。

最後に、中間目標に対する現況値の計測がなされていない「まちなかの自転車・歩行者交通量」については、来年度調査する予定である。